

第163回日本獣医学会企画
第16回獣医学教育改革シンポジウム

大阪公立大学の設立・開学に向けた カリキュラム改定の取り組み

大阪府立大学
古家 優

公立2大学の新設統合



大阪府立大学

高度研究型大学
—世界に翔く地域の信頼拠点—



大阪市立大学

大学の普遍的使命
—優れた人材の育成と真理の探究—の達成

大阪公立大学(仮称)

2022年4月 開学予定

新大学の規模は現状と同規模(学生数 約16,000人 教員数 約1,400人)
学部学生入学定員数では国公立大学で全国第3位となる

新大学の教育研究組織(統合効果を発揮するための取組み)

新大学では、両大学の同種の分野を集約することを基本とした上で、新たに情報学研究科を設置するとともに、農学部・研究科、**獣医学部・研究科**、看護学部・研究科を独立(1学域 11学部 15研究科)

現在の学部・学域

市立大学
商学部
経済学部
法学部
文学部
理学部
工学部
医学部
生活科学部

府立大学
高等教育推進機構
現代システム科学域
工学域
生命環境科学域 (獣医学類を含む)
地域保健学域

新大学の教育研究組織

学部・学域	大学院
基幹教育機構	
現代システム科学域	現代システム科学研究科
文学部	文学研究科
法学部	法学研究科
経済学部	経済学研究科
商学部	経営学研究科
理学部	都市経営研究科
工学部	情報学研究科
農学部	理学研究科
獣医学部	工学研究科
医学部	農学研究科
看護学部	獣医学研究科
生活科学部	医学研究科
	リハビリテーション学研究科
	看護学研究科
	生活科学研究科

現在の大学院

市立大学
経営学研究科
経済学研究科
法学研究科
文学研究科
理学研究科
工学研究科
医学研究科
生活科学研究科
都市経営学研究科
看護学研究科

府立大学
工学研究科
生命環境科学研究科 (獣医学専攻を含む)
理学系研究科
経済学研究科
人間社会システム科学研究科
看護学研究科
総合リハビリテーション学研究科

獣医学部設置に向けた理念と方針

大阪府立大学・獣医学類の特徴

- 日本国内有数の玄関口である関西国際空港の近隣に立地し、国際連携を構築するのに理想的な地政的環境
- 関西唯一の獣医学教育機関であり、国内唯一の公立獣医学教育機関である特殊性・有利性を活かし、地域行政・研究機関・企業等と連携した教育プログラムを展開
- 上記2点を活かし、大阪府を中心とした地域社会に貢献すべき「公立大学法人」に属する動物医療・科学を担う学類としての役割を担う。

これからの社会に求められる獣医師の役割

- グローバル感染症への即時対応（リーダーシップの発揮）
 - ✓ 国内の食糧生産に大きな打撃を与える**越境性動物感染症**（口蹄疫、豚コレラ、鳥インフルエンザなど）が社会問題化し、さらに、狂犬病、SARS、エボラウイルス感染症など、**重症型人獣共通感染症**が国内に侵入・蔓延することが懸念されている。これらグローバル感染症の発生を未然に防ぐ知識と技術を有し、**国際機関（WHO、OIE）と迅速かつ密接に連携**し、有事に即応できるリーダー獣医師が求められる。
- 医獣連携の必要性（人医療との連携）
 - ✓ 国際的な公衆衛生上の課題であるAMR対策には人医療と獣医療の協調が欠かせず、日本医師会と日本獣医師会は学術協定を提携して取り組んでいる。実効性のある成果を得るためにはより深化した連携が必要で、**医獣連携型のAMR専門教育**の充実が喫緊の課題である。
- 地域と連携した実践的獣医事サービスの提供（地域社会への先制的サービス提供）
 - ✓ 超高齢社会への移行が不可避となっている現在、実践力を有する人材による高度な「獣医事サービス」を提供することが求められている。例えば、①伴侶動物・産業動物に対する**獣医療の高度化**、②**動物と人との社会共生の複雑化**、③人医療の研究、治療薬開発に欠かせない**動物生命科学の高度化・学際化**、④食糧生産・流通の技術開発に対応した**先制的食の安全担保**の必要性。上記感染症対策に加え、これら高度獣医事サービスを社会に提供できる、**国際経験のある実践的人材を輩出**することが、獣医学教育機関にますます求められている。

本学が目指す理想的な獣医学教育

- 部局間連携を進め、**学際的な視点**を持つ獣医師を育成
 - （例）医学部との連携により「**医獣連携型専門教育**」を実現
 - （例）理学・農学部等との連携により「**創薬科学専門教育**」を実現し、トランスレーショナル人材の輩出を加速
- 国内外の大学・機関との連携強化により、食料安定供給や感染症対策に高い能力を有する「**高度公共獣医師**」を輩出
- 地域獣医師（会）等との連携により、獣医臨床センターを高度獣医療の拠点として「**実践的獣医療教育プログラム**」を学生へ提供
- EAEVE対応教育プログラムと**卒業研究**を学士教育に同梱させ、**生命科学者としての高度獣医師**を養成

獣医学類 現行カリキュラムマップ

要卒単位数: 219単位

1年次

2年次

3年次

4年次

5年次

6年次

有機化学基礎
生物学実験
動物生態学

生物統計学演習
生命環境科学概論

獣医科学英語

獣医学関連法規

導入教育

獣医療倫理・動物福祉学
獣医学概論

基礎獣医学

獣医生化学A・B
獣医生化学実習
獣医生理学A・B
遺伝育種学
発生学
獣医組織学
獣医解剖学A
獣医解剖学B
獣医組織学実習
獣医解剖学実習
実験動物学
実験動物学実習

獣医生理学C
獣医生理学実習
放射線生物学

獣医外科学総論
獣医内科学総論
獣医繁殖学A・B
獣医繁殖学実習
牧場実習

獣医薬理学A・B
獣医薬理学実習

獣医臨床栄養学／獣医臨床薬理学
獣医臨床病理学／獣医血液病学
獣医皮膚病学／獣医消化器病学
獣医神経病学／獣医泌尿器病学
獣医感覚器病学／動物行動治療学
獣医循環呼吸器病学
獣医内分泌代謝病学
獣医麻酔学／獣医手術学
獣医放射線学／獣医腫瘍学
獣医整形外科学
獣医放射線学実習
大動物診断治療学A・B
獣医軟部組織外科学
獣医内科学実習
獣医麻酔・手術学実習
臨床基礎実習

臨床獣医学

総合臨床
大動物診療実習
大動物臨床A・B

応用獣医学

毒性学A・B
毒性学実習
獣医公衆衛生学
食品衛生学A・B
獣医国際防疫学
野生動物医学

獣医衛生学
人獣共通感染症学
獣医衛生学実習
獣医公衆衛生学実習
食品衛生検査学実習

病態獣医学

獣医ウイルス学
獣医細菌学
獣医寄生虫学
獣医寄生虫学実習
獣医免疫学

獣医病理学A・B
獣医病理診断学実習
獣医病理組織学実習
獣医伝染病学A
獣医微生物・免疫学実習

獣医伝染病学B・C

獣医学共用試験

創薬学概論
創薬学概論演習
創薬フィージビリティ
研究実習
薬物動態・代謝解析学
疾患モデル動物学
毒性病理学
毒性病理学実習
動物行動解析学

産業動物生産獣医療
大動物野外診療実習
産業動物病性鑑定特論
産業動物病性鑑定実習
獣医感染制御学実習

獣医感染制御学
獣医環境科学実習
獣医環境制御管理学
獣医環境科学

食品循環科学
食品安全管理学
食品流通安全管理学演習

獣医科学英語演習

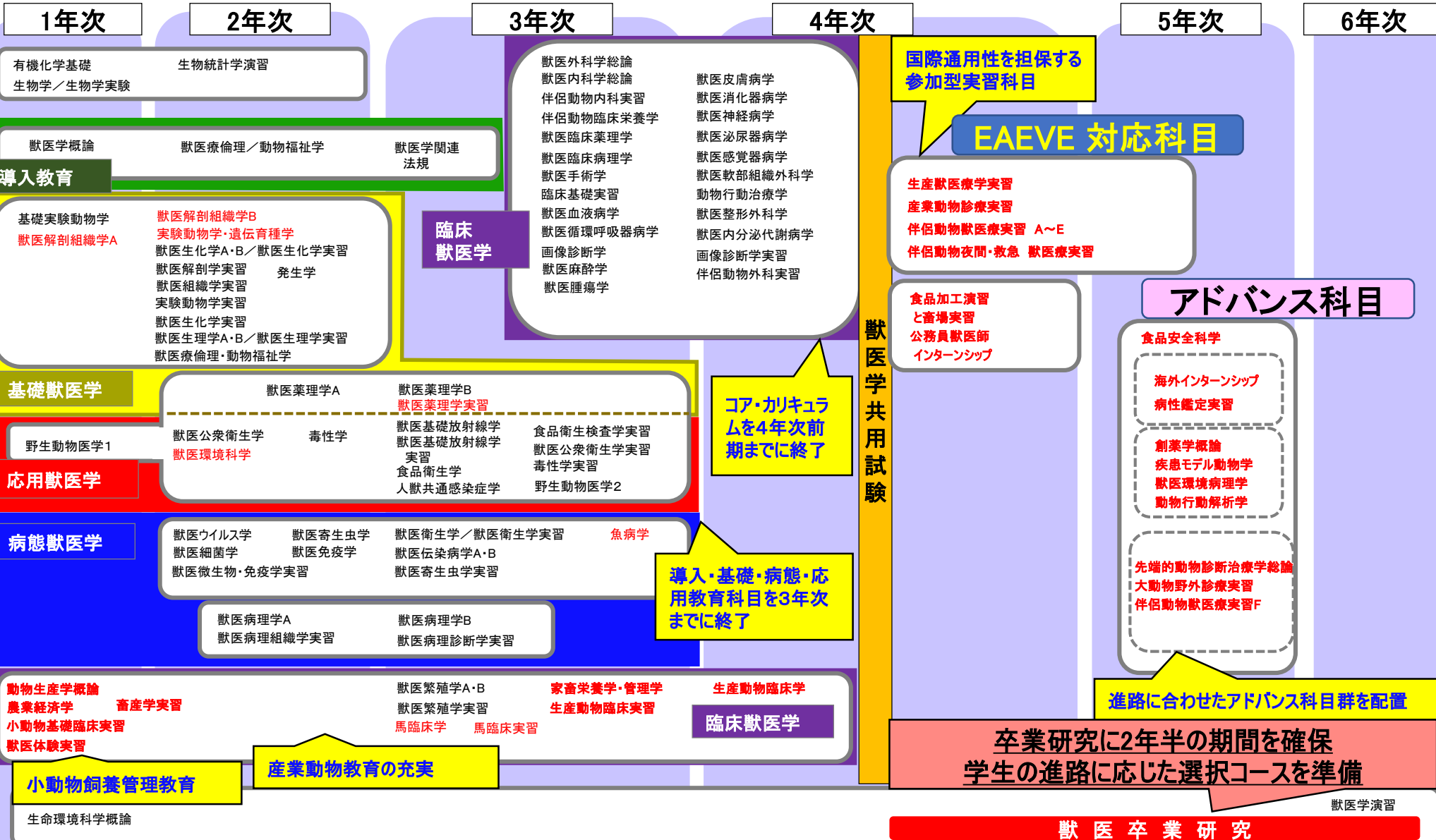
獣医学演習

獣医卒業研究

学外特別実習

獣医学部・獣医学科 新カリキュラム・マップ

要卒単位数: 216単位



EAEVE認証対応カリキュラムにおける伴侶動物臨床実習

EAEVE認証(欧州獣医学教育国際認証)カリキュラムでは、実習時間に加え、学内および学外における学生1人あたりの担当症例数が問われる

大阪公立大学

予約制二次診療のみ



学外の診療施設における学生実習が必要

(科目名:伴侶動物獣医療実習-E)

参加型臨床実習における現在の課題

共用試験までの動物のシミュレーターを用いたhands-off実習と大学病院におけるhands-onの参加型臨床実習との格差が大きく、十分な教育効果が得られていない可能性がある。
→ それぞれの実習の間をつなぐ内容が必要

新カリキュラム(2022年度開始)における臨床実習の位置付け

1~4年次前期

専門科目講義
Hands-off 実習



共用試験
(Student doctor)



4年次後期~5年次前期

伴侶動物
獣医療実習-E



4年次後期~5年次後期

伴侶動物獣医療実習-A~D
伴侶動物夜間・救急獣医療実習



5年次後期~6年次

卒業研究
臨床アドバンスコース

大阪府動愛センターおよび
学外診療施設における
hands-on 実習

大阪公立大学獣医学部附属
獣医臨床センターにおける参加型臨床実習
A: 内科・エキゾチック, B: 麻酔・外科
C: 画像診断, D: 病理・剖検

■ 実習概要 ■

大学病院における参加型臨床実習に備えた*基礎的な臨床技術の習得を目指す
hands-on実習

開講: 4年次後期から5年次前期

期間: 学外診療施設(民間動物病院および動物愛護管理センター)における実習

合計期間: 1人あたり、のべ10~15日間

担当教員: 専任教員、非常勤講師、FD研修を受けた動物病院の獣医師

*基礎的な臨床技術

(例) 動物の保定法、一般身体検査、採血法、注射法、投薬法、糞便検査、尿検査、細菌検査、ウイルス検査、ワクチネーション、皮膚検査、眼科検査、など

EAEVE認証に要求される教育内容(伴侶動物分野における現状と対応策)

EAEVE要求事項 (ESEVT Indicators関連項目)	現状	対応策	新カリキュラム上の対応
Clinical trainingの時間数	不足	参加型伴侶動物臨床実習を大幅に拡充。少人数の班構成とし、hands-on実習による技術の習熟度を向上させる。	伴侶動物獣医療実習A, B, C, D, E(4~5年次・合計16単位)を新設科目として設定し、参加型伴侶動物臨床実習を大幅に拡充する(clinical training: 目標834時間)。
伴侶動物診療件数 (@学内施設)	やや不足	診療スタッフの充実等により初診数、総診療件数共に増加させる取り組みを行うと共に、学生が診療に当たる時間数(単位数)を増加させる。	伴侶動物獣医療実習A, B, C(4~5年次・合計10単位)を新設科目として設定し、さらに診療件数を増加させ、学生1人あたりの症例数を増加させる。
伴侶動物診療件数 (@学外施設)	なし	動物愛護管理センターや一次診療施設における実習プログラムを構築し、学外における診療件数を増加させる。	伴侶動物獣医療実習E(4~5年次・4単位)を新設し、学生1人あたりの症例数を充足させる。
伴侶動物の夜間・救急診療	なし	本学獣医臨床センターを実施場所とする夜間診療に特化した診療体制を、地域の獣医療法人との連携で確立し、要求基準を達成する。	伴侶動物夜間・救急獣医療実習(4~5年次・1単位)を新設し、2026年度までに学生が受講できる体制を整える。
エキゾチック動物診療件数 (@学内施設)	不足	民間の動物病院と本学獣医臨床センターとの連携を強化し、診療科を新設するなどして症例数を増加させる。	伴侶動物獣医療実習A(4~5年次・4単位)を新設し、非常勤講師を雇用することで、診療件数を充足させる。
伴侶動物病理解剖件数	不足	近畿圏の動物愛護管理センター、開業獣医師との連携を強めて、学外からの剖検検体の確保を図る。	伴侶動物獣医療実習D(4~5年次・2単位)を新設し、必要な剖検数を充足させる。
エキゾチック動物病理解剖件数	不足	近畿圏の動物愛護管理センター、開業獣医師との連携を強めて、学外からの剖検検体の確保を図る。	伴侶動物獣医療実習D(4~5年次・2単位)を新設し、必要な剖検数を充足させる。

EAEVE認証に要求される教育内容(大動物分野における現状と対応策)

EAEVE要求事項 (ESEVT Indicators関連項目)	現状	対応策	新カリキュラム上の対応
馬の診療数 (@学内施設)	不足	馬臨床学専任教員を新規採用し、本学臨床センターにおいて、大阪府下馬診療施設・乗馬クラブ等における症例数増加を図る。	産業動物診療実習(馬の個体診療)を新設
馬の診療数 (@学外施設)	不足	馬臨床(内外科)学専任教員を新規採用すると共に、大阪府下馬診療施設・乗馬クラブ等との連携強化を図る。	産業動物診療実習を新設
馬の24時間診療	なし	馬臨床(内外科)学専任教員を新規採用し、大阪府下馬診療施設・乗馬クラブ等との連携強化を図る。	産業動物診療実習(馬の個体診療)学外との連携で夜間診療を実施する
反芻動物・豚の診療数 (@学内施設)	不足	牛臨床学専任教員を新規採用し、本学臨床センターにおいて、大阪府下酪農家・農業高校等を対象とした症例数増加を図る。	産業動物診療実習(牛・緬山羊・豚の個体診療)を新設
反芻動物・豚の診療数 (@学外施設)	不足	既存教員と新規採用教員が中心となり、NOSAI兵庫家畜診療所、豚診療機関との連携を強化して対応する。	産業動物診療実習を新設
反芻動物・豚のOn-call対応	なし	獣医繁殖学専任教員(既存)・牛臨床学専任教員(新規採用)でOn-call対応を実施する。	産業動物診療実習(牛・緬山羊・豚の個体診療)
反芻動物・豚の群管理	不足	牛臨床(内外科)学専任教員を新規採用すると共に、大阪府家畜保健衛生所・畜産農家・他大学付属牧場等との連携強化を図る。	生産獣医療実習を新設
家禽の群管理	不足	学外機関との連携を強化して、既存実習科目(獣医衛生学実習)の中で、訪問件数拡充。	獣医衛生学実習(現カリから移行)
馬の剖件数	不足	大阪府下馬診療施設・乗馬クラブ等との連携強化を図る。	病理組織学実習・病理診断学実習(現カリから移行)
反芻動物・豚の剖件数	不足	NOSAI家畜診療所・家畜保健衛生所等との連携強化を図る。	病理組織学実習・病理診断学実習(現カリから移行)